

令和元年度第5回経営協議会 議事要旨

日 時 令和2年1月27日（月）14時30分～16時30分
場 所 事務棟第二会議室
出席者 和田学長，江頭理事，鈴木理事，近藤副学長，佐山委員
上林委員，榊原委員，佐藤委員，杉江委員，福田委員，舟本委員
欠席者
陪席者 海老名理事，石橋監事，小嶋監事，小嶋事務局長

議事に先立ち，前回（11月18日）開催の令和元年度第4回経営協議会の議事要旨の確認が行われた。

続いて，討議事項が1件追加となっている旨発言があった。

また，和田学長から，議事進行の都合上，議題1「令和2年度小樽商科大学予算編成方針（案）について」の前に，報告事項1～3について報告を行う旨発言があった。

報 告 事 項

1. 令和元年度補正予算対象予定事業について

和田学長から，報告資料1に基づき，令和元年度補正予算対象予定事業について報告があった。

2. 令和2年度予算「防災・減災，国土強靱化のための3か年緊急対策」対象予定事業について

和田学長から，報告資料2に基づき，令和2年度予算「防災・減災，国土強靱化のための3か年緊急対策」対象予定事業について報告があった。

3. 令和2年度運営費交付金等内示額について

和田学長から，報告資料3に基づき，令和2年度運営費交付金等内示額について報告があった。

議 題

1. 令和2年度小樽商科大学予算編成方針（案）について

和田学長から，審議資料1に基づき，令和2年度小樽商科大学予算編成方針（案）について諮られ，原案どおり承認された。

承認後，和田学長から，同日開催の役員会に附議する旨発言があった。

討 議 事 項

1. 国立大学改革方針について

和田学長から、討議資料1に基づき、国立大学改革方針について説明のうえ、討議・意見交換が行われた。

(主な意見等)

- ビジネススクールの取組を今後、拡大・強化していく方針はもちろん良いが、発展のアイデアとしては、文理融合、データサイエンス教育、AI等、日本では取り組みが遅れている要素を取り込んだ、驚くようなアイデアが無ければならない。そういった提案により、将来の発展の展望をアピールできるのではないかと。
- 今回の概算要求で予算措置されることとなったところであるが、データサイエンス教育の取組として、ビジネススクールでは、ビジネス界でデータサイエンスを活用している企業とのクロスアポイントメントによる教員採用を考えている。これにより、ビジネススクール及び学部では、データサイエンスを活用できる人材を育成する。また、データサイエンティストをどう経営に活かすのか理解できる人材を育成する。現代商学専攻では、より専門性を高めたデータサイエンス教育を行い、企業の経営・政策立案に活用できるデータを作成・分析できる人材を育成することを考えている。
- 企業にとって採用した人間の再教育をしないといけない点は、競争力である。競争力が欠けている若者が多い。また、大企業では入社した3割程度が1年で辞めるといわれており、辞める理由としては、自分の考えている仕事ができないという理由が多い。一方、企業側からすれば、入社して間もない者が自分の考える仕事ができるというのは論外である。ここではいわゆるミスマッチが起きている。学生の段階で、競争力を身に着けるような教育と、ミスマッチしないような教育をしていただきたい。
- 文理横断的、文理融合と言われているが、現実には理工系が主役になっている。世の中はAI等、技術先行的になっている。こういった時代にこそ、人文科学、社会科学の面から、技術優先的になっているところをしっかりと指導できる人材を育成することが重要である。3大学連携においても、小樽商大が求められる役割はそこではないかと思う。文理統合というのは好ましいことであるが、現実とはあまりに違っているため、この国立大学改革方針に則った形で進むべきではないかと思う。
- 文理融合と言ったときに、世の中の流れは、理系をベースとした人材にどう社会科学の知識・考え方を付与していくのかという考え方が主流になっていると思う。文系単科大学としてどう生きていくかを考えると、世の中に、会計士やコンサルタント等活躍する場面は多くある。理系の人材が苦手とする分野、専門職等に集中していけば、むしろその方がメインストリームになるのではないかと。世の中の求める文理融合の主役になれるのか疑問がある。
- 過去に企業で人事部門をみていた時の話であるが、社内的に評価される商大生が少なく

なった。英語の能力や、難易度の高い資格に合格する商大生はほとんど見たことがない。学生時代にもチャレンジできるものもあると思う。高いレベルの資格に受かっていくような教育を大学でできないものか。文理融合以前に、小樽商科大学としてできることはまだまだあるのではないか。

報 告 事 項

4. 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

和田学長から、報告資料4に基づき、平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

5. 職員の給与及び役員報酬の支給基準について

和田学長から、報告資料5に基づき、職員の給与及び役員報酬の支給基準について報告があった。

6. 最近のトピックスについて

和田学長から、報告資料6に基づき、最近のトピックスについて報告があった。

その他

和田学長から、次回の経営協議会については、令和2年3月9日（月）14時30分から開催する予定である旨、発言があった。なお、緊急の案件が生じた場合には、急遽、会議を招集させていただくことも想定されるので、その場合には、会議の開催日程を調整させていただきたい旨、併せて発言があった。

以 上